

今治をもっと元気に住みやすく

市内全高校140人

熱く意見交換

今治をもっと元気に、住みやすいまちへ。今治市の高校生が熱く、前向きに意見を交わした。同市片原1丁目の市みなと交流センター「はーばり」で開いた交流イベント「いまこ青春祭」。



「学校の枠を超え交流したい」いまこ青春祭 初開催

ターズクラブの「未来へつなGO! 今治共創プロジェクト」の一環。昨年度の市合併20周年記念事業で市民が今治の未来像について意見を出し合う中、「学校の枠を超えて交流したい」との声を具体化しようと、高校生と同クラブの企業でつくる実行委員会が市の支援を受けて7日、初めて開催した。

今治南高校の青道ハフオーマンズ作品を掲げた屋外ステージで、県立5校の生徒会長が意見交換。司会を務めた実行委

の生徒代表・畠中真知さん（FC今治高里山校2年）が地域との関わりを問うと、今治南高2年の外野連主さんは「地域の子ども食堂の運営にボランティアとして協力し、生徒と年齢の近い子どもから慕われている」と説明した。

多忙な高校生に地域イベントへの参加を促すにはどうすればいいか。今治北高2年の佐野洗太郎さんは「生徒にとって優先度の高い勉強や部活、友人関係などと今治（の

イベント）をつなげることが大事だ」と提言。今治工業高2年の大泉翔来さんは子ども向けティール教室（県高野連主催）の運営に野球部員が参加していることを挙げ、スポーツイベントなどを「各校が連携してできればおもしろい」と話した。

今治西高2年の岡崎勇太さんは「各校の目標や課題などを情報交換する機会はなかった。一緒にやる気、元気」あふれる今治になるよう取り組みたい」と見聞えた。

徳永繁樹市長に向けた「高校生の主張」では、生徒が市ホームページでの市民用掲示板▽読書に関する広報の充実▽公園の整備などを要望した。「アニメなど若者文化のイベントを一緒につくりませんか」との提案も。徳永市長は、若者の取り組みを支える担当部署の設置を検討したいなど応じていた。

各吹奏楽部の合同演奏やダンスパフォーマンス、ワークショップなどもあった。（西尾寛昭）